

## 所長に就任して

岩 根 圀 和

つい目と鼻の先にありながら言語研究センターへ足を運ぶのはせいぜい月に1、2度、それもとりにたてて用事があるわけでもなく、通りがかりにふらりと寄る程度のものであった。そんな人間が所長の重責を務めることになったのだからその狼狽ぶりは推して知るべしであろう。もともと私は、言語研究センターの所長には言語研究を専門分野とする者がその責に就いて研究活動の統括をしてゆくべきだと頑なに信じていた。しかし実際に所長になってみるとそのような生半可な持論は焼けたトタン屋根の雪だるまのごとく瞬時にしてはかなく溶け去ってしまった。

三月末の派遣社員採用のための面接に始まり、LL教室改修にともなう業者との対応、教材開発室にかかわる諸問題、マルチメディア教室の運営、パーフェクトテレビ設置に向けて業者との交渉、そしてCD-ROMやアプリケーションソフトの購入などの細かい雑事、とりわけLL教室とマルチメディアの諸問題が次々と目白押しにやってくる。言語教育を円滑に稼働させるためには必要不可欠な作業であり、新学期にはとりわけ多忙であるのは仕方がない。しかし責任感さえあれば誰にでも処理出来る仕事である。

その一方で言語教育関係の雑事にかまけて肝心の言語研究の陰が薄くなってはならない。この方面の活動を浮き上がらせるにはまず共同研究グループの活性化を計らねばならないだろう。少ない予算の中から幾ばくかの援助が出来ればと思う。そのため既存の共同研究グループの継続ならびに新規募集を予定している。講演会にしても、充分な

謝礼を捻出できないかも知れないがその時はまたなんらかの手段を講じることを考えるつもりである。このような地道な活動の成果が紀要の充実にもつながって行くだろう。ささやかながらも研究活動を根付かせること、そうすればやがて花が咲き実を結ぶに違いない。突然に理想をふりかざして大きなことを求めても何もできない。一粒の麦が地に落ちて死ねば豊かな実を結ぶ。それを期待したい。いたずらに先を急ぐことなく堅実にまず基礎を固めることから始めるつもりである。もちろんセンターの運営委員がひとり張り切ってみても所詮むなし。所員、とりわけ言語研究を専門とする諸氏の協力を心から願う次第である。

従来の三名に加えて今春から派遣職員二名を追加してセンターの雰囲気も大きく変わったと密かに自負している。もちろん公私を混同した無理な注文は受けられないが、なによりもまず柔軟な対応を持って所員に万全のサービスを提供することを心がけている。朝の八時半から夜の八時半まで常時開室して柔軟なサービスを所員に提供できるように配慮したのもその現れのひとつである。言語研究センターに対する従来の不平・不満あるいは恨みつらみを捨てて是非一度来室して戴きたい。用事などなくてもいい、お茶を飲むだけで結構、そしてご意見、ご批判を承りたい。

就任より三ヶ月、今やそれぞれの職員が自分の領域を守って働いてくれている。ひとりひとりが言語研究センターのメカニズムにとって欠かせない歯車である。感謝して大切にしたい。そして所長は日々、その間を巡回しては油を差して回っている。